

～家庭と学校が協力し合って、子どもの「学ぶ力」を育てましょう～

「学ぶ力」を育てることは学校教育の重要な役割ですが、家庭での関わり方によって、その育ち方は大きく変わります。子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む環境・習慣づくりをしましょう。

<各学年の特徴>

家庭学習のやくそく

- ① 1日の家庭学習時間を決め、自分が決めた時刻に机に向かう。
- ② ものを食べながら勉強しない。
(勉強する場の整理整頓)
- ③ 学習中はテレビや音楽の電源を消す。
- ④ 毎日、読書を続ける。
- ⑤ 次の日の学習の準備をする。

家庭学習時間のめやす

低学年 15～30分

中学年 45～60分

高学年 75～90分



筆箱の中

- ① けずった鉛筆 (5～6本)
- ② 赤鉛筆 (赤ペン)
- ③ 青鉛筆 (青ペン)
- ④ よく消える消しゴム
- ⑤ 定規 (15cm程度)
- ⑥ 名前ペン
- ⑦ 先生から指示のあったもの

低学年 基本的な学習習慣をきちんと身につける

<学校での学習内容の特色>

- 「読み、書き、計算」など、基礎的・基本的な学習が始まります。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- 繰り返し練習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。
- 「鉛筆を正しくもつ」「次の学習準備をする」「整理整頓をする」も基本となる学習です。

<家庭学習の内容や方法>

- 音読は、楽しんで、すらすら読めるよう毎日練習させましょう。句読点に気をつけて、大きな声で読ませましょう。
- 漢字は、書き順に気をつけて、丁寧にゆっくり書かせましょう。
- 計算は、楽しみながら慣れるようにしましょう。まちがった問題は、もう一度やり直す習慣をつけさせましょう。

<読書>

- 子どもにあった本を身のまわりに置きましょう。読み聞かせをするのもいいですね。

<ワンポイントアドバイス>

- 学校からのプリント類や今日の宿題と一緒に確かめましょう。

中学年 自ら机に向かう姿勢を育てる

<学校での学習内容の特色>

- 「総合的な学習の時間」や「社会科」「理科」の学習が始まり、学習範囲も大きく広がります。
- 資料集や地図帳、辞典などを使い、調べ学習をすることが多くなります。
- 算数では分数や小数など、少しずつ抽象的な内容を学び始めます。
- 四則計算(+)、(-)、(×)、(÷)の基礎・基本を徹底して学びます。

<家庭学習の内容や方法>

- 毎日一回は音読をさせましょう。
- 学校の漢字ドリルなどを活用して、繰り返していねいに練習させましょう。
- 国語辞典の使い方に慣れるよう手元におき、常に使用させましょう。
- 学校の計算ドリルや教科書を活用し、毎日少しずつ計算させましょう。

<読書>

- いろいろな種類の本を選んで読ませましょう。

<ワンポイントアドバイス>

- 学校からのプリント類を親に手渡す習慣、今日の宿題を自分で確かめさせる習慣をつけさせましょう。

高学年 予定を立てて、自力で学習を進める

<学校での学習内容の特色>

- 筋道立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えます。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習が多くなります。
- 学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- 自ら学ぶことの楽しさを経験させ「学び方」を育てます。

<家庭学習の内容や方法>

- 詩や俳句、短歌などの暗唱や朗読をさせましょう。
- 習った漢字を使って短文を作らせましょう。
- よく間違える計算は繰り返し練習させましょう。
- 答えの確かめを、自分でできるようにさせましょう。
- 学校の勉強で興味があった事を広げたり、深めたりする学習をさせましょう。

<読書>

- 家族や友だちと感想を話し合ひましょう。

<ワンポイントアドバイス>

- 宿題を自分で確かめさせ、やる順番を決めさせましょう。
- 日記などを通して、書くことに慣れさせると共に、自分の気持ちや考えを整理させるように働きかけましょう。

子どもは読書で伸びる!

- 「想像力」を伸ばす・・・
言葉から場面をイメージする力がつきます。
- 「理解力」を伸ばす・・・
言葉の理解と相手の感情理解の両方の力がつきます。
- 「コミュニケーションの力」を伸ばす・・・
語彙が増え、自分の言いたいことを伝える力がつきます。

読書好きになる家庭でのしかけ

- ① 本がいつも“そば”にあるように!
- ② 「それでどうなったの」「どうして」など親子の“会話の道具”として使う!
- ③ “大人の読書する姿”を見せる!



お家の方へお願い

- ・学習の様子を見て、がんばっていることは、ほめて認めて、励ましの声をかけましょう。
- ・特に低学年のお子さんは、学習中そばで見守ってあげてください。